

# ごあいさつ

山陰合同銀行では、2019年度中間決算の概要、経営方針及びお客様への思いを綴った、「山陰合同銀行中間期ディスクロージャー誌」を作成いたしました。ご高覧のうえ、当行へのご理解を一層深めていただければ、幸いに存じます。

## 地域やお客様とESG・SDGsの価値観を共有

近年、日本では、毎年のように台風・大雨がもたらす災害が各地で発生しています。世界的にみても相次ぐ自然災害の発生は、地球温暖化の影響を連想させ、気候変動への対策についての議論を加速させています。また、世界は環境問題だけでなく、その他の多くの社会的課題を抱えており、こうした課題を誰もが「自分ごと」としてとらえ、自らができる範囲で解決に取り組み、持続可能な社会を形成していくことが求められています。地域金融機関に対しても、ESG（環境・社会・企業統治を重視した経営）やSDGs（持続可能な開発目標）の達成に積極的に取り組み、地域に広める役割を担うことが各方面から期待されています。

こうした社会的要請に応えるべく、当行は「リレーションシップバンキング」を徹底的に展開することで、地域・お客様とESG・SDGsの価値観を共有し、持続可能な地域社会の実現を目指しています。これまで、地方創生、CSRなどといった様々な言い方がされてきましたが、これらと考え方は共通するものであり、各営業店においても、地域の持続発展に貢献する取り組みを続けています。また昨年度に引き続き、「SAN-IN・イノベーション・プログラム（SIP）2019」を実施し、事業所数が減少している山陰において、新たな事業創出に挑戦しています。表面的に体裁を整えるのではなく、地域・お客様の「真のパートナー」として課題解決に動くことで、ESG・SDGsの理念は広められていくと考えています。

## 高度な「コンサルティングサービス」の提供に果敢に挑戦

超低金利環境の継続など、金融機関を取り巻く環境は非常に厳しい状況が続いていますが、地域の持続可能性に貢献していくためにも、しっかりと収益計上できる体制を構築する必要があります。当行はこれまで、「リレーションシップバンキング」を普遍的なビジネスモデルと位置付け、法人のお取引先・個人のお客様ともに力を入れて取り組んできました。今後これをさらに発展・深化させた高度な「コンサルティングサービス」を提供することで、当行の収益の柱としていくことに挑戦しています。

法人のお取引先に対しては、課題解決をお手伝いし、



その結果に対して手数料をいただく「成功報酬型コンサルティングサービス」に重点的に取り組んでおり、報酬をいただけるような深度ある事業支援活動を展開していきます。個人のお客様に対しては、忙しい現役世代の方にもゆっくりとご相談いただけるよう、休日も営業する「マネープラザ」を開設しました。また、先般、野村證券(株)と金融商品仲介業務における包括的業務提携について最終契約書を締結しましたが、今後具体的に提携を進めることで、双方の強みを活かした高度なコンサルティングサービスを提供していきます。

## 活力ある組織とするための変革

お客様にご満足いただける質の高い「コンサルティングサービス」を提供できるようになるため、専門人材の育成に注力するとともに、働きがいの持てる活力ある職場とすることが必要です。そのひとつとして、これまでの銀行の堅いイメージの払拭と柔軟な発想が生まれやすい職場環境とすることを目的に、10月から本部署員に「ビジネスカジュアル」を導入しました。今後も行職員の多様な働き方の推進など、働き方改革を大胆に進めていきます。

既成概念にとらわれず変革に果敢に挑戦することで、地域と当行がともに持続的に成長できる社会を必ず実現できると信じています。

皆様には、今後ともより一層のご支援・ご愛顧を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

2020年1月

取締役頭取 石丸 文男